

塩谷風月 (大阪府・大阪市) 2

近澤有孝 (広島県・三次市) 3

写真自分史づくり② 4

「俳句と身体」③ 俳人 黒岩徳将 16

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニユース

にいがた 食の歳時記 ～藤五郎梅～



6月。夏に向けて暑くなるころ、梅の実が収穫時を迎える。あまり知られていないが、新潟県で梅と言えば「藤五郎梅」。主な産地は新潟市の亀田地区。もともとは観賞用だったものを、青果問屋の宇野藤五郎がその実を出荷したところ好評だったため「藤五郎梅」と名付けられたそう。やや大きめの実で、肉質はねっとりとしている。梅干しはもちろんのこと、梅ジュース、梅酒、何にでも使える。暑さが増してくるこの季節、梅ジュースもいいが、梅干しでさっぱりとおむすびをいただくのもいい。幸い、おいしいお米もある。知られざる新潟の一品梅。ぜひ、ご飯のおともにしていただきたい。

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

6-7
Vol.110

温古知新 ⑥ 「菜根譚」34

梅雨ということも相俟つて、家にいることが多い方もいらっしゃるかと思います。そのお供に、「菜根譚」、いかがでしょうか。

霽日の青天も、倏ち変じて迅雷震電と為り、疾風怒雨、倏ち変じて朗月の晴空と為る。気機何ぞ常あらんも、一毫の凝滞なり。太虚何ぞ常あらんも、一毫の障塞なり。人心の体も、亦当に是くの如くなるべし。

(晴れた青空も、急変し、雷が鳴り響き稲妻が光る空となり、強風と豪雨だったかと思えば、更に一変して、月の明るい晴れた空となる。気象は、常に一定で不変ではない。大空も常に一定でなく、大自然の流れの中の一部でしかない。人間の心もこうありたいものである。)

此事にとらわれるばかりでなく、大きな視点で物事を見られるようになりたいものです。

私に勝ち欲を制するの功は、識ること早らず、力むること易からず、と曰う者有り。識り得て破り、忍過またずと曰う者有り。蓋し、識は是れ一粟の照魔の明珠にして、力は是れ一把の斬魔の慧剣。両つながら少くべからざるなり。

(自分の欲望に打ち勝ち制することは、理

解が遅ければ実行が難しいという者がいる。また、理解しても、実行し続けることが難しいという者もいる。思うに、理解力は魔を照らす宝石で、実行力は魔を斬る智慧の剣である。二つそろって、どちらが欠けてもいけない。)

理解して、行動する。そこまでできなければ意味がないとわかっていても、なかなかできないものですよね。

人の詐を覚るも、言に形わさず。人の悔りを受くるも、色に動かさず。此の中に無窮の意味有り、亦、無窮の受用有り。

(人が騙そうとしている事に気がついて、言葉にしない。人から侮られていても、顔色を変えない。この中に限りなく深い意味があり、また、限らない懐の深さがあるのである。)

無駄に騒がず、争わず、といったところでしようか。懐の大きな人になるのは難しい!

今回は、前集の127項までをご紹介します。解つてもできないことが多い私には、身に染みることはばかりです。

(古川久美子)

しおたにふうげつ
塩谷風月様

『歌集 月は見ている』

(大阪府・大阪市)

昨年12月、2000年から昨年まで約19年の歌を『歌集 月は見ている』として出版した塩谷風月さんにお話をお聞きしました。

Q なぜ『歌集 月は見ている』を出版しようとした？

歌集を出したいという漠然とした気持ちはずっとありました。一生に一冊でいいから、塩谷風月としての句点、あるいは読点を一度打ちたかった。でも、お金や体調、社会的な立ち位置の問題、何より自分の歌に自信がなくて、諦めていたのです。

しかしここ数年、今出さなければ永久に出せない、という根拠はないのですが、漠然とした焦燥感がありました。さらに、歌人仲間が、私家版でも安く良い本を作っているのを知って、これなら自分にも手が届くかもしれない、と。そこで御社を紹介していただいて、今回のご縁に繋がりました。



▲歌集を出したことで短歌が楽しくなったという塩谷風月様

Q 本を出されるまではどうでしたか？

難しかったのは、やはり選歌です。今まで三千首ほど溜めていたのですが、本のページ数に収まるように絞り込むことと、その構成を、たとえば編年体にするのかテーマごとに分けるのか。歌の良し悪しよりも、塩谷風月とはこういう歌人だったんだ、と思ってもらえるような本にしたいという気持ちがあった。どんな歌集が自分らしいのか。自分自身を見つめ直す怖さとも向き合いました。半年ほどかけて選びましたが、しんどかったです。

Q しんどさと向き合った半年間だったのですね

短歌を作る最中も、自分の中の闇の部分とか痛みとか、割とまっすぐに剥き出しにしているの、結構しんどいんです。今回はワンクッションおいた一読者の目で自分の歌と向き合うことになったので、作っているときは違うしんどさがありました。なんやこいつ、こんなにイタイ奴なんかかって(笑)。

Q 本を手にした時は？

率直に感動しました。たぶん、子どもが生まれた時の次ぐらいにね。こんな良い本に作ってくれたんだ、という感謝の気持ちと、これが私自身の結晶なんだ、という感動。ちよっと泣きました(笑)。

Q 今、夢中になっていること

夢中というわけではありませんが、短歌を作ることが楽しくなりました。これまで、かなりしんどい思いをして



▲「歌の美しさの奥に、言いようのないさみしさを感じる」黒瀬珂瀾氏の解説より

作ってきて、もうやめようかなと何度も思ったりして。それが、歌集を出したことで、変な言い方になりますが、ひとつ大きな肩の荷が下りたというか。あと、歌集を読んでくれた周りの人たちに、思っていた何倍も受け入れてもらえた。自分の歌って薄くて下手だと悩んでいたのが、そうでもないよ、と少し楽になって。今一番楽しいのは、短歌を作ること、と素直に言えます。

Q すばらしい歌集の効能ですね(笑)

そうですね。もともと好奇心が強く、いろんなところに首を突っ込んできました。今は体調の問題でなかなか行動できませんが、この好奇心だけは大切にしたいです。たとえば、家ではほとんどお酒を飲みませんが、酒場の雰囲気が好きで。そこに集まるお客さんにはサラリーマン、経営者、貿易商、外国航路の船乗り、水商売や風俗業など、実に様々な職種の人が出て。普段の生活ではまず出会えないような人達と腹を割って話ができる。世界が広がりました。

あと、僕自身もそうですが、酒場にひとりでお客さんは陽気に見えてもみんな何かしら孤独を抱えている。そういう精神的な機微も垣間見えて、

とても良い人間観察の場でもあり、短歌の題材もたくさんいただきました。

Q これからは？

短歌を始めたばかりの頃、仲間を募って、自分を含めたいろんな人の朗読を集めたCDを作りました。今後は個人で朗読活動もやってみたいです。今、YouTubeに朗読の動画をあげたり、やり方を模索しているところです。あと、元氣になったら演劇もやってみたい。短歌のような言葉での表現とは対極にある、身体での表現にも好奇心があつて。いっそ言葉を完全に封じた無言の劇とか、とても興味があります。

『歌集 月は見ている』より

ああ、今だ。あなたの顔の色がすつと薄くなってきれいな怒り
大阪のほとんどが海だったころ四ツ橋
通りを北へ行く鯨
漕ぎいでな。彼方に落ちる陽に向かい
闇のはだえの水に濡れつつ

★時に胸を衝かれ、一時の軽みに安堵はするが、重低音のように哀しみが通底する。休詠期間もあったと聞くが、それでも月は見ている。月は歌なのであろうか。ぎりぎりのところで歌が主を支え、読む人の背中を押す、そんな一冊だ。(木戸敦子)

『歌集 月は見ている』をご希望の方は、塩谷様のメール stufgets.1995.katz@gmail.com までご連絡をお願いします。(1冊1000円＋税＋送料)

近澤有孝様 『句集 蹠』

(広島県・三次市)

今年3月、最近3年間の273句を『句集 蹠』として上梓した、近澤有孝様にお話をお聞きしました。

Q 『句集 蹠』を出版しようと思った経緯

実は、是が非でも句集を出したいというわけではなかったんです。高校時代から現代詩を書いていて、俳句は詩の表現を削る鍛錬にと思って、10年ほど前から少しずつ無手勝流に詠んでいました。安東次男の句風を継承していたのが、3年ほど前のことです。

句集を出そうと思いはじめたのは、7歳下の妹が突然他界した、一昨年の暮れのころだったと思います。それまで詩で書いてきていた死とはまったく違った威圧感ともなつて『死』と『こ』と『ぼ』がかぶさつてきたわけです。そういう意味で『句集 蹠』は、妹の追悼句集であると同時に、亡き妹によって救済された、ぼく自身の漂泊



▲俳句は詩の表現を削るべく鍛錬で始めたという近澤有孝様

の書と言えるかもしれません。

Q 亡き妹さんによって救済されたというの？

うまく言えないのですが、妹の死によつて、ぼく自身のことを取りもどすことができたような気がするんです。当初は悲嘆にくれ、ぼつかりと胸に穴があいたような感じだったので、それが時間とともに、ぼくに「お兄ちゃんが生きんといかんがぜよ」(高出身なので土佐弁です) って、妹から言われているような気がしてきました。「ああ、いままでどおりでいいんだ」って思いましたね。妹が、ぼくの作品の一番の理解者でしたから。

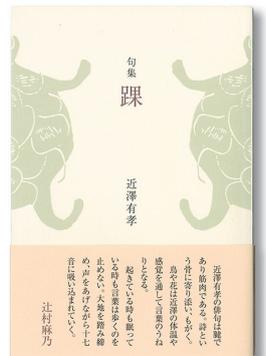
Q 本の出版は初めてでしたか？

詩集はこれまでに4冊上梓していますが、句集ははじめてのことです。最初は、句集ははじめてのことです。選句、構成など、知らないことばかりでした。それで「篠」主宰・辻村麻乃氏に相談をして、おおまかな形を整えていただきました。おまけに、真心のこもった帯文まで書いていただき、感謝のこともありません。

それから『旧かな表記』も、ぼくはまったくわからなかったのですが、これは喜怒哀楽書房さんが句集・歌集を得意とする出版社ということで、安心してお願いできました。

Q 本を手にした時は？

まずは、ほつとしましたね。妹をもうという意味でも、俳句というかたちで自分のことを残せたという意味で



▲「鳥や花は近澤の体温や感覚を通して言葉のうねりとなる」「篠」主宰辻村麻乃氏の帯文より

も。本の出来は、すばらしいものだと思います。表紙も本文の紙もしつとりとしてよかったですし、表紙のデザインも素晴らしく、『とても美しい』という感想も寄せられています。ぼくのややこしい注文に真摯に対応してくださった喜怒哀楽書房のスタッフの皆さんに、あらためてお礼を言いたいですね。

Q どのような感想や反響がありましたか？

ぼくが所属している「篠」誌の同人の方を中心に、いろいろな感想やご意見を寄せていただきました。発想がユニークとか、一生懸命に生きているようにですねとか言っていたとき、ほつとしました。あと、『身体性』のある句という評もいただいたのですが、これは、ぼく自身、意識していたことでもあったので、とても嬉しかったです。

Q 身体を通しての表現ということですか？

そうですね。ぼくは生まれつき、スタートジ・ウエーバー症候群という病気を患っています。顔のあざ、左半身のみひ、てんかん発作と、ずいぶんしんどい思いをしてきているため、どうしても自分の肉体をとおして得た感覚で

ないと信じられなくなっているのかもしれない。だからぼく自身の句の評価の基準は、傲慢かもしれません。美しい句というより、自分の感じた世界を詠みこめているかどうか、ということになってしまふんですね。

Q これからは…？

先のことはあまり考えないようにしていますが、たぶん、これまでと同じように詩を書き、俳句を詠んでいるだろうと思います。気負わず、のんびりと、頑迷に、あるがままのさまをことばにしていけたらいいな、と思っています。

『句集 蹠』より

あたたかや雨のはぜるも雨の香も
てつせんや云はずもがなの蔓を巻き
妹のフレアスカート金魚玉
菊摘むはあはれ菊摘むをやめ
焚火するたびにどこかが寒くなり

★ホームページより当社を見つけてくださりご縁のあった広島近澤様。最初のメールやお電話口での受け答えから既に、当方を気遣ってくださる優しさを感じました。亡き妹さんも、その時々近澤さんだけの「ことば」に天国で耳を澄ませていることでしょう。

(木戸敦子)

『句集 蹠』をご希望の方は、当社宛てご連絡ください(連絡先は16ページ下部参照)。郵便局の振込用紙を同封のうえ(消費税・送料込み1060円)お送りします。またamazonでも販売中!



写真自分史づくり

～スタッフ松野が祖父の写真自分史の手伝いをします～



今回、写真自分史を制作するのは松野利雄。
大正の終わりに生まれ、御年95歳。大工として
50年務め、退職後、現在まで家庭菜園・工芸・
養鶏・カメラ・パソコンを趣味に日々大忙し。



2. 写真をスキャ
ンし、画像修
正を行います。



3. スキャナー
からパソコン
に写真の画像
が送られてきま
した。パソコンに搭
載された「フォト
シヨップ」という
画像編集ソフトを
使い、ごみ取りや
色味、傾き具合な
どを調整してい
きます。



1. 前回は松野が収録する写真を一緒に選び、付記する説明をまとめたところまでお伝えしました。さて、選りすぐりの写真50枚が出そろいました。95歳の人生が50枚ですから、約2年に1枚ということになります。ほんの一部しか紹介できませんが、簡単なキャプション(写真の説明)を読むだけで、祖父の人生が胸に迫ってきます。

- ① 母親ツルと2歳の利雄
- ② 次男が入隊する際の記念撮影
- ③ 新潟から上京し立川にあるN社へ入社 15歳
- ④ 地域の青年が集まって、銀河楽団を結成 25歳
- ⑤ シズエとの結婚式 自宅にて 28歳
- ⑥ 長男誕生 29歳
- ⑦ 自宅にて蚕を飼育し繭を販売 30歳
- ⑧ K邸建築中 40歳
- ⑨ 建築の技能検定で金賞を受賞 47歳
- ⑩ 自宅にて 園芸に没頭 48歳
- ⑪ 1階が埋まるほどの大雪が降る 61歳
- ⑫ 菱ヶ岳へ人生初登山 63歳
- ⑬ 我が家の建築現場(親方として計画から設計・現場監督などを行う) 69歳
- ⑭ 東京都庁にて シズエと孫・未来と一緒に 70歳
- ⑮ 孫大集合 72歳
- ⑯ 緑花賞受賞 県知事より表彰される ビッグスワンにて 78歳
- ⑰ 白山神社の鳥居を修復 83歳
- ⑱ 長年お世話になったクリニックの閉院に際して 病院内で記念撮影 90歳
- ⑲ 金婚記念樹を植えてから15年経過 93歳
- ⑳ ひ孫・帆奈と一緒に 95歳



▲スキャン前



▲スキャン後

スキャン前は写真のセピア色が強めで、内側に丸まっています。画像修正後は、ヨレなく色味を調整し、一人一人の顔が見やすく綺麗に仕上がっています。このように、スキャンと画像修正を1点1点丁寧に行いますので、工程にかかる時間は、プロの技を使っても写真50点で1時間半! これから更に編集部や祖父本人の校正が入り、時間をかけて、美しい写真自分史は完成へと近づいていきます。
次回は、編集部や祖父本人の校正、その後の修正場面をお伝えいたします!

句集への道

(第二回)

一木戸敦子が自分の句集づくりにチャレンジ!



コロナウイルスの影響をこんなところにも受け、前号から突然スタートした当企画。今回は俳句の状態を確認していきます。さてさて……?

◆いま、どれくらい作品数がありそうですか?

さあどうだろう、全くわかりません(笑)。というより、使える句、収録に備えるような俳句があるのかというところからまず。亡き母の追悼集をまとめたとき、この本を作ったよかったですと心から思ったので、ぜひ皆さまもご自身の生きた証を形に、とお勧めしているのですが。いざ自分のこととなると、私ごときが句集を!? いつ何時何があるかはわからないので、ないよりはあった方がいいとは思いますが、その手間暇時間、お金をかけて作る必要はあるのか、という思いが先に立ちます。この企画がなければ決してしない(笑)。

◆作品はどのように保存・管理していますか?

えっ、言わせるの(笑)。最初5年ほど前は句会の前の日にわーっと適当に3句作って、全

没とか。それに嫌気がさして2017年2月からは一日一句を詠み、友だちにLINEで送り数日後に手帳にまとめて書いています。あとはその中から句会や「銀化」に出す俳句に○をつけ、実際に「銀化」に載った句をまた別のノートに書いて……かなりアナログですね。

◆俳句の整理サービスは必要でしょうか?

無手勝流に選んだものをそのまま掲載していいならいいのですが、冷房車の中にいたと思ったら次の句でベチカにあたっていたらマズいわけですよ。その辺りは手に余るので、ぜひお願いしたいです。で、何句くらい選ぶのか、数を決めた方がいいの? 好きな句、選んできた句をまずは選べばいいの? えっ、年代順に? (半ばやけ気味!)

◆俳句の掲載順は、どうしましょう。時系列順? 歳時記順?

現時点では、全く考えておらず。でも、その時々何を見て感じていたのか、あとでわかるといいので、時系列にしつつその中で歳時記順にしたのかなあ。でもそうすると、俳句を始めた当初の句とかダメでしょうってレベルかも……。

少しずつ動き出した句集づくり。今回は入集する作品の整理・編集についてレポートできればと思います。どうぞお楽しみに。

※誌面の都合上、掲載は原則お一人さま1作品とさせていただきます。

今回の投稿作品数は、266でした。

※しめきり 2020年7月15日(水)まで



短歌

- 1 「この袋開けますか」と問いかけるホームの職員「ら抜き言葉」で萬濃その子(神奈川県)
- 2 新型は世界中の現状に親子で祈る樹木のいぶき 大鳥居牧子(東京都)
- 3 いつもなら悪態ばかりの孫娘手づくりマスク十枚くるる 黒澤正行(福島県)
- 4 ウイルスに傷つく春も来る春は美しくあれ母国のさくら 寒川靖子(香川県)
- 5 今まさに老老介護全うすホセ・ムヒカさん貧しくはない 福岡 悟(東京都)
- 6 わが心の博物館は祈念館捧げたくともクナシリ見えず 早坂紘司(北海道)
- 7 咲き満ちて桜むなしくこぼれゆく山のみ寺の春のひそけさ 野木宗信(奈良県)
- 8 「旅立ちの日に」をビデオで歌う子等卒業式の中し淋しき 関原幸子(東京都)
- 9 春なのに都会に暮し十六年ポロポロになり子が帰ってきた 濱崎祥子(鹿児島県)
- 10 夜半めざめ雨のリズムの心地よくじっと目を閉じしばらくを聴く 森 由恵(奈良県)
- 11 換気にと窓開けやれば春の日の香をもつ風が柔に入り来る 夏井寛治(新潟県)
- 12 ケイタイを持って不便になりましたた私の行動監視されてる 岩崎弘舟(岡山県)
- 13 一口を三口に分けて介護士の昼餉世話する姿優しき 守安幹男(岡山県)
- 14 花に語うここから先の長坂を一緒に生きよか人生百年 佐伯セツ子(香川県)
- 15 ウイルスの拡大の中自粛なく危機感も無い湘南の海 坂元正憲(東京都)
- 16 コロナでも母買物し働く父医師看護師にただ感謝す 大橋絵代(千葉県)
- 17 マーチの楽章のほりつめにし祈りなれどふいに否めりどうこの手が 安部 哲(新潟県)
- 18 一つ事又くり返す夫の目に桜水仙たんぽぽ椿 田中豊恵(新潟県)
- 19 褥瘡の手当て学べば寝たきりの義母車椅子で庭の木々愛で 相馬 純(新潟県)
- 20 泡立たせ両掌を洗う日に慣れて行くを抑えてまた本を読む 土屋喜雄(山梨県)
- 21 老いた母淋しさよぎるいとおしい何の術なくただ涙する 津山和照(広島県)
- 22 待ちていしひまごに会わせぬコロナの世様も遂に葉桜になる 高須 孝(愛知県)
- 23 人間の活動を自粛・萎縮させコロナウイルスの脅威広がる 桑原謙一(群馬県)
- 24 逢いたいね独居の友の電話声三月足止め花を贈らん 合田浩子(茨城県)
- 25 人集い明るく時を過ぎむとコロナにまげず時を待つなり 高橋登志子(新潟県)
- 26 小春に犬の散歩のあゆみ止めしはしききいるうぐいすの声 本田智恵子(東京都)
- 27 ウイルス禍騒り争ふ人間に天罰なるか神の怒りか 久本にい地(岡山県)
- 28 コロナとふ目に見えぬ敵あなどれぬ億の大群地球をおほふ 中村万年青(京都府)
- 29 花嫁の詣でる社はなやぎて我に安堵のひとときがあり 糸賀緋紹子(茨城県)
- 30 タンポポの綿毛の模様よく見れば驚くほどの美の世界なり 早坂保文(宮城県)
- 31 桜花舞ふ名残りの春の愛ほしやあつめて添へむ葉書一葉 内藤明子(東京都)
- 32 人間が忘れた優しさ思いやりステイホームでスイートホーム 岩崎令子(大阪府)
- 33 庭の花あげはちやうが舞い病後の私をいやしてくれた 新井 賢(埼玉県)
- 34 コロナ避け喜怒哀楽とこもりけり 大久保白村(東京都)
- 35 幸せの計り笑顔と少し金 木村洋一(新潟県)
- 36 コロナ禍に何もせん流貫くか 橋本世紀男(東京都)
- 37 コロナ菌あと追い策をあげ笑う 近藤富夫(東京都)
- 38 答弁に目立つ黒子の手書きメモ 中村康浩(福岡県)
- 39 年とるも知識は無限無知の知か 原 崇雄(埼玉県)
- 40 終活で過ぎし昔を掘りおこし 守屋高雄(岩手県)
- 41 コロナブルー心の芯がぶれてくる 小山恵美子(大阪府)
- 42 亡き父母の脛は今でも生きている 細川光子(栃木県)
- 43 チラシ見て今日のカードが決められる 目黒豊光(福島県)
- 44 情報の海に流されゆく不安 鈴木義雄(福島県)
- 45 コロナ禍をどこ吹く風と紅しだれ 奥那於子(大阪府)
- 46 九輪に春の風そよぐ梅の花 濱田イサオ(福岡県)
- 47 思い出は月日の中へ封じ込む 渡部美代子(山形県)
- 48 三密が台無しにする春の宵 長谷川庄二郎(千葉県)
- 49 お正月コロナウイルス高笑い 青木日出男(群馬県)
- 50 濁点の打てない音のまろやかさ 丸山芳夫(東京都)
- 51 待ち遠し東京五輪正念場か 久保壽雄(北海道)
- 52 新コロナに妙なる処方息やめる 艸庵(長野県)
- 53 十万円押しいただくは血税ぞ 豊田智慧子(新潟県)

川柳



俳句

- 54 鳥交る千代田区千代田一の一
吉里ひとみ(東京都)
- 55 園芸店春花の色水清し
五十嵐睦博(新潟県)
- 56 辛夷咲く故郷初恋サッポロソフト
谷岡 晃(埼玉県)
- 57 さくらさくら太鼓響かぬ体育館
小島岳青(新潟県)
- 58 思ひ出を行きつもとどりつ花筏
若月理依子(新潟県)
- 59 それぞれの花を隠して春の雪
小田ゆかり(新潟県)
- 60 今日あることの幸せ飛ぶ螢
内河邦久(東京都)
- 61 モンゴルにマスク送るや春の雲
松尾らん(東京都)
- 62 晩春の晩年なれどコロナ怖し
井原毬子(東京都)
- 63 ゆるやかに老いて生れの日更衣
堅田秀子(東京都)
- 64 みちのくの関所を越ゆる夕立雲
すずき笑子(東京都)
- 65 春疾風向ひて自分の足で立つ
湯浅芳郎(岡山県)
- 66 その内という日は来ずや鳥雲に
関山恵一(神奈川県)
- 67 竹取の翁の絵図や雛の門
浅田季祐(埼玉県)
- 68 天気雨葉桜の道走りぬけ
小林美智(新潟県)
- 69 過疎の村五風十雨の青田かな
鈴木米征(茨城県)
- 70 手洗とマスク・謝絶が救いと
岩村 昇(神奈川県)
- 71 襲い来るコロナ禍飛ばせ青嵐
古関智子(神奈川県)
- 72 冬晴や竹富島の水牛車
間森 坦(兵庫県)
- 73 夏帽子シャイに被って車椅子
島村幸重(兵庫県)
- 74 国中から笑顔の消えたマスクかな
早乙女文子(埼玉県)
- 75 吊り橋のわたりきれずや山笑ふ
片山茂子(埼玉県)
- 76 遠き日の二十歳の誓ひ古日記
山崎吉晴(群馬県)
- 77 コロナよサラバ共に散る桜
白松いちろう(千葉県)
- 78 春嵐菌車狂う新コロナ
塩崎須美子(神奈川県)
- 79 今日で閉めます惜春のモカ・マタリ
松尾憲勝(神奈川県)
- 80 天水の波紋に揺るる春の月
小澤円梨(静岡県)
- 81 春隣り今日買ってきた布団かな
湯浅暉子(石川県)
- 82 「目を覚ませ」地球は一つ春愁
九法活恵(埼玉県)
- 83 短日や知ること多し八十路末
西條公雄(埼玉県)
- 84 うららかや孫二人目が社会人
関 誠(新潟県)
- 85 絵画展出で桜湯の昼餉かな
溝畑万年青(埼玉県)
- 86 思ひ出のセピア色なり麦の秋
環 順子(東京都)
- 87 葉桜や長堤の風やはらかし
大谷 茂(埼玉県)
- 88 聞きたきは二人の会話だいりびな
本間 進(新潟県)
- 89 大わらじさげて春呼ぶ村境
本間ミネ(新潟県)
- 90 斜視近視老眼底翳目借時
今井勝子(新潟県)
- 91 寒明くる山鳩啼いて奥高野
上村元義(神奈川県)
- 92 子の覗く岸辺より水温みけり
高松玲子(埼玉県)
- 93 花は葉に人にそれぞれ生きる道
吉村充治(埼玉県)
- 94 亡き父の尺八の音や夏の月
堀木和子(大阪府)
- 95 無人校舎事情知らずに桜咲く
居原田暹(大阪府)
- 96 露味噌の嫁も娘も味上手
齋藤光雄(新潟県)
- 97 忙しさも程良き暮し豆御飯
小林七重(新潟県)
- 98 パンジーを咲かせ老舗の店仕舞
清まさじ(静岡県)
- 99 保育所のお散歩コースつくしんぼ
平山千江(岩手県)
- 100 湾に入る船は面舵鯛雲
三津木俊幸(千葉県)
- 101 草とるもとらぬも勝手老いならば
長峰正晴(千葉県)
- 102 籠もりみてウイルス憂ふ桜まじ
中島光江(埼玉県)
- 103 筍の味噌焼き旨し里の味
天野輝子(東京都)
- 104 待ち遠しひとり泳ぐや風車
神 一男(静岡県)
- 105 コロナ避け別荘暮しの花見かな
峯岸信子(東京都)
- 106 コロナ菌の迫る気配や寒き春
後藤恭介(茨城県)
- 107 知恵つきし児に不可思議の春の虹
梶 鴻風(北海道)
- 108 逝く春や遺影は何を見てゐるの
大阿久雅子(埼玉県)
- 109 めぐりくる季節を映す水田かな
杉村美保子(岩手県)
- 110 チューリップ手折る子の夢ろくろ首
田中こづえ(北海道)
- 111 おぼろ夜や辻の地蔵も眠りがち
中田文子(大阪府)
- 112 祝詞なき歌もなき日に卒業す
坪田勝秀(鹿児島県)
- 113 黄泉の道開き招きて花吹雪
有坂馨園(福島県)
- 114 桃咲くや雀の遊ぶ庭となり
若井令子(兵庫県)
- 115 さくら道走る小犬に引張られ
大窪美代子(大阪府)
- 116 ひとひらの花を受くるや仏の手
佐野和彦(静岡県)
- 117 春稽古安静続く焦り翁
浦橋渴雪(兵庫県)
- 118 はうれん草ホパイは老ゆることも
本庄準也(埼玉県)
- 119 閑さや風吹くことに散る桜
井上氣海(広島県)
- 120 惜春や苦渋は口にせぬと決め
高崎登喜子(東京都)
- 121 人はみな塾居強いられ雉子の鳴く
井田由利子(宮城県)
- 122 日輪をあびる幸せ胡蝶花
山田富朗(埼玉県)
- 123 魂の何処へ行くやら雪螢
阿部徳夫(宮城県)
- 124 水仙の希望の雫蕾あり
阿部澄江(宮城県)
- 125 ふらここを漕ぎ上がりては夕陽追ふ
富高くにひろ(埼玉県)
- 126 天職を一途に生きて星涼し
金子範子(高知県)
- 127 父老いる炬燵に引かれり口で指示
大木和男(埼玉県)
- 128 窓ごしの手を振る妻に春の雨
原田治男(東京都)

- 129 南天の稲穂の如く垂れし花
磯部 力(新潟県)
- 130 裏山に鬼の伝説余花の寺
一瀬正子(埼玉県)
- 131 凍てゆるむやはらき朝日照らしけり
木村徳夫(東京都)
- 132 花もまた淋しく散りぬ「コロナ」風
大塚徳子(埼玉県)
- 133 猫去りて又猫の来る日向ほこ
井上静夫(栃木県)
- 134 風に乗り花の飛び来る天満宮
津布久信雄(東京都)
- 135 山桜薄紅色に雲染める
平林義康(兵庫県)
- 136 春光に力士の鬢のかがやけり
古谷 力(東京都)
- 137 人気なき浜巻貝の春の歌
望月哲土(東京都)
- 138 松の芯卒寿の夫のたじろがず
川嶋法子(東京都)
- 139 桐の花柩に入れて耳かきも
二瓶邦枝(埼玉県)
- 140 紫陽花や救世観音に小さき門
津田脚雲(岡山県)
- 141 貸し出しの予約は電話春の雨
小島澄子(神奈川県)
- 142 葉の香りあまく楽しむ桜餅
竹本美美子(新潟県)
- 143 降り立ちて郷の初音に癒される
堀田寿美子(北海道)
- 144 躍り出て真逆さまの滝の水
田中 昶(鳥取県)
- 145 でで虫や人類早く歩み過ぎ
寺内 佶(埼玉県)
- 146 青空へチューリップ皆口開けて
岩田 信(神奈川県)
- 147 色と香はことさら新茶といわずとも
貝瀬光洋(神奈川県)
- 148 パラソルを回し少女に戻りけり
高野ほづ子(千葉県)
- 149 潜む陽のさざ波佐渡はおぼろ影
藤井春三(埼玉県)
- 150 コロナ禍や令和二年の青菜汁
中野勝子(鹿児島県)
- 151 愛でる人なくて桜は咲いて散り
鏡たか子(山形県)
- 152 山風の移りて早し花は葉に
杉原明子(静岡県)
- 153 郁子の花粉黄色に土を染めにけり
多田文代(東京都)
- 154 生き方の凸に凹にと山笑ふ
北野耕兵(千葉県)
- 155 ざわめきて鳥蹴散らす燕五羽
中岡宗治(三重県)
- 156 終活や春の一日のシュレッダー
日名子春実(群馬県)
- 157 散る桜舞う花びらの桜道
和崎治人(山口県)
- 158 ふらここの鉄鎖に浸むる今昔
坪井研治(東京都)
- 159 伊夜比古の万葉の道花すみれ
渡辺邦彦(新潟県)
- 160 螢烏賊よい夫婦の日手巻寿司
高坂恵子(京都府)
- 161 ひそとせし校庭に満つ桜かな
渥美 保(滋賀県)
- 162 もつれつつ庭に舞ひ来る夏の蝶
道給一恵(埼玉県)
- 163 さつそうと白衣の天使五月来る
鈴木清子(埼玉県)
- 164 風五月新型コロナの荒れ狂ふ
青木光子(埼玉県)
- 165 桜舞う人影恋し城の庭
松島章子(兵庫県)
- 166 野仏の頬を撫でゆく花菜風
中嶋清子(佐賀県)
- 167 あの角を曲がれば会える老桜
中山日出子(大阪府)
- 168 コロナ菌吸い込むまいぞ鯉のぼり
松前邦広(千葉県)
- 169 咳ひとつ二つ目我慢ウィルス禍
橋本 絢(東京都)
- 170 柿若葉病癒えし子吾を語る
小林幸子(埼玉県)
- 171 鱈背やな浅蜷の背のまだら紋
伊藤 修(埼玉県)
- 172 笹だんご朴念仁に足りぬ数
置鮎勝美(千葉県)
- 173 今そこの眼鏡を探す目借時
重原爽美(新潟県)
- 174 大いなる月を浮かべて春の水
松嶋光秋(東京都)
- 175 朝寒むやコロナ感染染蟻地獄
村山徳英(埼玉県)
- 176 草むしりホーホケキヨにはげまされ
田村よし(茨城県)
- 177 花道や植田の中の道をゆく
光成高志(千葉県)
- 178 池の面に平どつつじと青い空
長谷部喜代子(大阪府)
- 179 外遊びする子等も無く鯉幟
中川義彦(新潟県)
- 180 紫陽花やもうひと変化喜寿の齢
小泉芝雲(千葉県)
- 181 緑の大地コロナ禍に怯けり
齊藤安弘(神奈川県)
- 182 洗えどもハンカチからは生活臭
白戸麻奈(東京都)
- 183 秘めごとを隠し切れずに咲く薔薇
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 184 黄砂降る怪しき風に誘われ
倉沢ひとみ(静岡県)
- 185 コロナ禍で部屋の飾りを春風と
坂本暁子(東京都)
- 186 さみどりの風のウインク初鯉
高垣勝代(大阪府)
- 187 人と会はずこの道が好き青田風
若林卓宣(三重県)
- 188 ネットに聞く筒レシビ孫来る
清水君江(埼玉県)
- 189 夜には夜の煌めき持てる植田かな
安田芳江(茨城県)
- 190 小でまりの花すり抜けて子等走る
山里倫子(静岡県)
- 191 幾月も使はぬ「スイカ」水中花
阿部昭子(埼玉県)
- 192 志望校願った孫にサクラサク
門田善二(兵庫県)
- 193 ストレスの溜りにたまりて新茶汲む
中尾直美(大阪府)
- 194 剣玉の一発に立ち子供の日
池田喜代持(兵庫県)
- 195 文士るし石神井河畔さみだるる
増田公代(東京都)
- 196 月詣り青葉園にて花見かな
宇都木安子(東京都)
- 197 テレワークつづく背中や薄暑はや
中澤寿美(神奈川県)
- 198 二本もつ青きクレヨン夏の海
内藤紀子(埼玉県)
- 199 蒼き空こぶしの花をひとりじめ
齋藤博洋(秋田県)
- 200 仏陀杉梅雨の寒さを乗り継いで
椋木望生(大阪府)
- 201 夕薄暑龍角散をまた口に
佐藤 信(神奈川県)

※前号投稿作品228番長谷川庄二郎様の作品に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
誤 同行の二人一人影法師
正 同行の二人一人は影法師



フォトイック



(写真提供・伊丹三樹彦さん)

こちらの写真を見て詠んでいただきました。

- 202 愛犬の墓に一輪バラの花
針生 清(千葉県)
- 203 香草を摘むや青葉の雨しとど
桜井葉子(千葉県)

- 204 あをによし願ひも込もる春の祭
五十嵐睦博(新潟県)
- 205 塔よりも酒の宣伝目を奪う
橋本世紀男(東京都)
- 206 三重の塔桜と提灯従へて
井原毬子(東京都)
- 207 五重塔今月の人出は如何ばかりか
大鳥居牧子(東京都)
- 208 三重の塔をかすめる京の春
堅田秀子(東京都)
- 209 塔見えて桜も見えて人をらず
岩村 昇(神奈川県)
- 210 蒼天に匂う品格塔の春
早乙女文子(埼玉県)
- 211 晴れ晴れし桜まつりや奈良の空
片山茂子(埼玉県)
- 212 名刹の花見コースに五重の塔
山崎吉晴(群馬県)
- 213 五重塔夕暮時の花祭
小澤円梨(静岡県)
- 214 提灯の下はほろ酔ひ花筵
九法活恵(埼玉県)
- 215 桜もお酒自粛来年楽しもう
小山恵美子(大阪府)

- 216 天を衝く人間なんてところてん
福岡 悟(東京都)
- 217 うつろひを見守る塔に初桜
本間 進(新潟県)
- 218 仏舎利の脇で花愛で酒食らひ
今井勝子(新潟県)
- 219 枝垂れ桜背にぬつと五重塔
居原田暹(大阪府)
- 220 塔囲み揃ふ日本酒春祭
齋藤光雄(新潟県)
- 221 烏賊を焼く匂ひの届く花の昼
平山千江(岩手県)
- 222 お花見は下からばかりじゃ能がな
長峰正晴(千葉県)
- 223 夏めく古都も美しき都も閑散と
天野輝子(東京都)
- 224 いかやきもやきそばもあるよ祭りの日
石尾曠師朗(東京都)
- 225 祭礼に酒の付添ふ桜かな
神 一男(静岡県)
- 226 佛塔と桜を包む大幔幕
梶 鴻風(北海道)
- 227 お花見の自粛に託つ独り酒
大阿久雅子(埼玉県)
- 228 見に行けぬ上野の桜夢の中
関原幸子(東京都)
- 229 さくら音頭コロナの威力に負けました
濱崎祥子(鹿児島県)
- 230 高き塔取り巻くさくら祭りかな
大窪美代子(大阪府)
- 231 日本酒に君臨するや二重の塔
佐野和彦(静岡県)
- 232 花見よりダンゴより先お参りを
奥那於子(大阪府)
- 233 お花見や塔も一役買って出る
有田裕子(北海道)
- 234 提灯と花に囲まれ五重塔
高崎登喜子(東京都)

- 235 ウイルスに振りまわされし花疲れ
井田由利子(宮城県)
- 236 あら不思議塔より目立つ月桂冠
阿部徳夫(宮城県)
- 237 塔よりもキンシ正宗気になりて
阿部澄江(宮城県)
- 238 五重塔はずかしいのか袴はき
長谷川庄二郎(千葉県)
- 239 お花見もコロナウイルス独りしめ
青木日出男(群馬県)
- 240 仁和寺もコロナに勝てぬ御手上げ
岩崎弘舟(岡山県)
- 241 花宴仏のおはすしじまあり
羽深そら(埼玉県)
- 242 鐘聞いてたい焼二つ休憩所
守安幹男(岡山県)
- 243 おせちの重五重三重日出度いな
佐伯セツ子(香川県)
- 244 沸き上がる遠き記憶の祭り笛
川嶋法子(東京都)
- 245 五重の塔清濁合はせて夏夜空
津田卿雲(岡山県)
- 246 異邦人のカメラアングル春日本
寺内 侖(埼玉県)
- 247 ンへすてたはなびらひとつついてたカ
安部 哲(新潟県)
- 248 花曇り塔の高さをつくづくと
田中豊恵(新潟県)
- 249 ご開帳呼び込む屋台白気づぶよく
藤井春三(埼玉県)
- 250 花冷えや今日一日さて何しよう
中野勝子(鹿児島県)
- 251 春祭りコロナ自粛でひっそりと
鏡たか子(山形県)
- 252 幕の内土台隠れて何重!?の塔
和崎治人(山口県)
- 253 ステイホーム飲むしかないか写真見て
合田浩子(茨城県)

- 254 五重の塔花と優雅に舞う夕べ
高橋登志子(新潟県)
- 255 せつかくの桜隠しし屋台かな
鈴木清子(埼玉県)
- 256 層塔もご機嫌なりや花の宴
松前邦広(千葉県)
- 257 塔よりも低き桜に眼をやりぬ
糸賀緋紹子(茨城県)
- 258 花舞台五重塔をそびら哉
光成高志(千葉県)
- 259 安寧の祈り深きや灯が点る
齊藤安弘(神奈川県)
- 260 訪れる人なき寺に桜祭り
岩崎令子(大阪府)
- 261 東塔や花の波寄すひもすがら
高垣勝代(大阪府)
- 262 花見酒今年は自粛家で飲み
安田芳江(茨城県)
- 263 応へあふ五重の塔と桜かな
阿部昭子(埼玉県)
- 264 うらかな古都の春日は色めきて
豊田智慧子(新潟県)
- 265 桜観はコロナ猛威に明りなく
宇都木安子(東京都)
- 266 炎天に刺さる相輪蕩けさう
椋本望生(大阪府)

俳句・川柳募集!!



(写真提供：浅田季祐さん)

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎俳句部門

3人は誰も逝く日を知らず春惜しむ

井原穂子(東京都)

・桜が咲き、木々が芽吹き、万物が輝く春だからこそその感慨に共感した。高松玲子(埼玉県)・生きている間はせいっぱい好きな事をやり暮引きを図りたい。吉村充治(埼玉県)・一日一日を大切に生きていく心境がよく詠まれている。後藤恭介(茨城県)・人は誰も自分の逝く日は知らないから平然としていられるのです。佐野和彦(静岡県)・あと一カ月で満八十才の誕生日を迎えますが七十一才からの十年は過ぎてしまふと早い。松尾正一(岩手県)・よきものが今に失われてしまうことをしりながらおしむことであるが死は平等にやってくる。中野勝子(鹿児島県)・自然を詠むのもよいが人生を詠む句が好き。多田文代(東京都)・明るく活気にみちた春なのにすぎ去りゆく春への思いは人の死をひとしお感じている。北野耕兵(千葉県)・「春惜しむ」が句意を深めていいと思いました。日名子春実(群馬県)・年のせいかさう思うことが多くなりました。針生清(千葉県)

10 山笑ふ山懐に妻と老い

佐野和彦(静岡県)

・なごやかなご夫婦のお姿が思われ、こんな暮らしがしたかったとうらやましくほほえましく思う。井原穂子(東京都)・山笑うの季語の使い方が素晴らしい。湯浅暉子(石川県)・私も同じ思いの老二人。齋藤光雄(新潟県)・私のくらしもこの句と同じ位の日々を送っております。富士山のおもとでね。神一男(静岡県)・思わず笑いたくなく

ります。坪田勝秀(鹿児島県)・妻と共に自分も老いているが妻への愛があふれている。金子範子(高知県)・老夫婦が二人で生きていることに仲むつまじさを感じる。津山和照(広島県)・共感。ふと思えばわが身辺もその通り。渥美保(滋賀県)・妻と過ごす日常が想像できてとても明るい。青木光子(埼玉県)・大きな自然の懐に抱かれての夫婦愛を感じた。高垣勝代(大阪府)

65 捨てられぬものに故郷木瓜の花

吉村充治(埼玉県)

・人生の先輩の心意気を感じる。若月理依子(新潟県)・故郷は一生心のよりどころです。木瓜の花が生きている。堅田秀子(東京都)・ふる里を離れているので実感です。山崎吉晴(群馬県)・わかります。「木瓜の花」との響きもよい。小島澄子(神奈川県)・故郷を思う心全く同じ。藤井春三(埼玉県)・わが家の植木木瓜の花も今年又咲きましたが故郷が恋しい。倉沢ひとみ(静岡県)

◎短歌部門

140 失態す母を叱りし母の日は幾年経る

も懺悔の日なり

黒澤正行(福島県)

・病院勤務の頃、粗相した患者を何度も叱り飛ばしていた上司の態度が思い浮かぶ。作者の気持ち分かる。松尾らん(東京都)・私も母を介護し去った後数年、そんな気持ちはまだ残っている。鈴木義雄(福島県)・冷静をかいて後悔ばかり、自分も行く道なのに。田中豊恵(新潟県)・私も恍惚の母で泣きます、あの頃は福祉も進まず大変でし

た。叱るも泣くも同じ事。あなたは本当に優しい人です。ご苦労様でした。鏡たか子(山形県)・没後十五年経った今でも同様の後悔に胸痛む。橋本絢(東京都)

145 満たされし日々の生活の隙間風コロ

ナウイルス寒空を感ふ

内藤明子(東京都)

・現在の心境を書かれている。塩崎須美子(神奈川県)・現在流行のコロナウイルスをうまく歌にまとめている。野木宗信(奈良県)・世界の日常を狂わせた見えない恐怖はまさしく文明社会の隙を突かれた。齊藤安弘(神奈川県)・平凡でもおだやかな日常が幸せだと思ふ。岩崎令子(大阪府)

◎川柳部門

182 咳一つ待合室は厳しき目

青木日出男(群馬県)

・迂闊に咳も出来ない(コロナ) 西條公雄(埼玉県)・私もアレルギー性鼻炎でよく咳をしますが、コロナと間違われそうでヒヤヒヤしている。井上氣海(広島県)・新型コロナウイルスの厳しい目がまんえん。津布久信雄(東京都)・コロナウイルスで皆さん敏感になつている。久保壽雄(北海道)・通院が仕事の歳になった。コロナ禍で院内感染が怖い。それでもマスク無しの人がある。和崎治人(山口県)

184 老二人懐炉並の余熱です

岩崎弘舟(岡山県)

・「懐炉並の余熱」がほんわかと心もあつたまります。奥那於子(大阪府)・お二人合せると二百歳近くか、余熱が心地よさそう。貝瀬光洋(神奈川県)

◎フォトイック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

16 曾孫の生まるる報せ梅ひらく

大谷 茂(埼玉県)

18 掌に香り転がす露の臺

湯浅芳郎(岡山県)

31 鞍や粗茶ですけどと熱々茶

吉里ひとみ(東京都)

43 わが俳句陳腐月並シクラメン

小島岳青(新潟県)

74 うまそうな果樹より売れし植木市

平林義康(兵庫県)

102 野仏の頬を撫で行く花菜風

本庄準也(埼玉県)

105 見えぬもの国を動かしマスクかな

多田文代(東京都)

117 雛八羽チャボの家族に春の土

橋本 絢(東京都)

158 濁り取り右目のレンズ入れ換えて見る大空は透明なブルー

関原幸子(東京都)

162 夢だった豪華客船世界旅ウイルス襲う恐怖を憂う

坂元正憲(東京都)

183 自分史へ小さな嘘が隠し味

近藤富夫(東京都)

188 ひと言に返事が十言二十言

丸山芳夫(東京都)

202 引き返すきつかけほしい影法師

川嶋法子(東京都)

232 ふてくされ風船の子は付いて来る

山崎吉晴(群馬県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

a Questionnaire



前回のアンケート
好きなテレビ番組は
何ですか

●「プレバト」

- ・プレバト 中嶋清子(佐賀県)
- ・高崎登喜子(東京都)ほか
- ・毎週楽しみです 川嶋法子(東京都)
- ・村山徳英(埼玉県)
- ・夏井いつき組長の1001番長です 池田喜代持(兵庫県)
- ・軽快でいて、急所をピンリと突く夏井先生には学ぶ所が多い 井上静夫(栃木県)

●朝ドラ

- ・朝の連続テレビドラマ 大久保白村(東京都)
- ・小田ゆかり(新潟県)ほか
- ・スカレット 有島和子(東京都)
- ・エール 峯岸信子(東京都)
- ・光成高志(千葉県)ほか
- ・古関裕而が懐かしい 近藤富夫(東京都)
- ・大好きな「長崎の鐘」を作曲した古関裕而氏の話なので興味い 関原幸子(東京都)
- ・古関裕而が妻の遠い親戚になるので興味深い 山田富朗(埼玉県)
- ・15分でよくもまとめあげるものだと感心 仁藤ひろじ(埼玉県)
- 大河ドラマ 寺尾亜真李(新潟県)
- ・大河ドラマ 久本に地(岡山県)ほか
- ・麒麟がくる 白松いちろう(千葉県)
- ・夏井寛治(新潟県)ほか
- ・本能寺の変までの光秀の心の変化が楽しみ 濱崎祥子(鹿児島県)

●「プラタモリ」

- ・プラタモリ 黒田康子(大阪府)
- ・木村徳夫(東京都)ほか
- ・私の知らない事納得させてくれます 平山千江(岩手県)
- ・一緒に旅し見物している気分 奥那於子(大阪府)

●「ポツンと」軒家」

- ・ポツンと一軒家 目黒豊光(福島県)
- ・土屋喜雄(山梨県)ほか
- ・いろんな人生観、生き方があるものですね 今井勝子(新潟県)

●旅・紀行番組

- ・吉田類「酒場放浪記」 大木和男(埼玉県)
- ・松尾憲勝(神奈川県)
- ・三宅裕司のふるさと探訪 松島章子(兵庫県)
- ・新日本紀行 岩田 信(神奈川県)
- ・人生の楽園、新日本風土記 齊藤安弘(神奈川県)
- ・にっぽん百名山 津布久信雄(東京都)

●BSの旅番組

- ・BSの旅番組 環 順子(東京都)
- ・小さな旅 井上氣海(広島県)
- ・井田由利子(宮城県)ほか
- ・小さな旅、ぶつきらぼう漁師の涙 道給一恵(埼玉県)
- ・鶴瓶の家族に乾杯 久保壽雄(北海道)

●教育番組

- ・NHK、Eテレの0655と2355、ピタゴラスイッチも
- ・藤井春三(埼玉県)
- ・旅好きと年のせい



- ・すずき笑子(東京都)
- ・中澤寿美(神奈川県)

●音楽番組

- ・毎週土曜日「あの人に会いたい」 早坂紘司(北海道)
- ・いないいないばあ(幼児番組) 丸山芳夫(東京都)
- ・所さん「大変ですよ」 北野耕兵(千葉県)
- ・日本人のおなまえ 中岡宗治(三重県)
- ・100分de名著 中山日出子(大阪府)
- ・高校講座の「地学」が新鮮な感じ 豊田智慧子(新潟県)

●音楽番組

- ・BS日本・こころの歌、クラシック倶楽部 塩崎須美子(神奈川県)
- ・NHK Eテレ「クラシック音楽館」 上村元義(神奈川県)
- ・五十嵐陸博(新潟県)
- ・サブちゃんど歌仲間。サブちゃん頑張れ！永遠に！ 居原田暹(大阪府)
- ・NHK 火曜日「うたコン」 齋藤光雄(新潟県)
- ・新BS・日本のうた 丸山喜美(新潟県)
- ・NHK らららクラシック 渥美 保(滋賀県)

●パリエティー番組

- ・NHK らららクラシック 渥美 保(滋賀県)
- ・駅ピアノ 田村よし(茨城県)
- ・カラオケの大好きな我が家では歌番組を楽しんで盛り上がっています 大橋絵代(千葉県)
- ・コロナのせいで「のど自慢」がなく残念 鏡たか子(山形県)
- ・なんでも鑑定団 木村洋一(新潟県)
- ・内河邦久(東京都)ほか
- ・ニッポン行きたい人応援団 関山恵一(神奈川県)
- ・笑点 谷岡 晃(埼玉県)

●クイズ番組

- ・あなたは小学5年生より賢いの 井原穂子(東京都)
- ・クイズ 大窪美代子(大阪府)
- ・世界ふしぎ発見 田中 昶(鳥取県)
- ・東大王。楽しいボケ防止 安部 哲(新潟県)
- ・マッコ会議 松尾らん(東京都)
- ・坪井研治(東京都)
- ・ケンミンショー 梶 鴻風(北海道)
- ・VS嵐 相馬 純(新潟県)
- ・迷宮グルメ。ヒロシの飾らない人柄も魅力 小林七重(新潟県)
- ・NHKの「チコちゃんに叱られる」 堅田秀子(東京都)
- ・田中こづえ(北海道)

●スポーツ番組

- ・ゴルフ、競馬 新井 賢(埼玉県)
- ・ゴルフ大会 間森 坦(兵庫県)
- ・スポーツ全般 長谷川庄二郎(千葉県)
- ・長峰正晴(千葉県)
- ・坂元正憲(東京都)
- ・黒澤正行(福島県)
- ・本間ミネ(新潟県)
- ・相撲中継 本間ミネ(新潟県)
- ・ドキュメンタリー番組 鈴木清子(埼玉県)
- ・Eテレのやまと尼寺 鈴木清子(埼玉県)
- ・NHK スペシャル 原田治男(東京都)
- ・情熱大陸 本庄準也(埼玉県)
- ・早坂保文(宮城県)
- ・プロフェッショナル、カンブリア宮殿 佐藤操子(東京都)
- ・ファミリィヒストリー 小林幸子(埼玉県)

● ニュース・報道・情報

- ・ ニュース番組しが見ず
- ・ LIVE ニュース中心
- ・ ニュース7、ニュースウォッチ9、報道ステーションは日課
- ・ あさイチ
- ・ NHK Eテレ人生レシビ
- ・ ためしてガッテン
- ・ クローズアップ現代で今を知る

● ドラマ

- ・ 「男はつらいよ」寅さん!
- ・ ドラマはロケーションが映るので楽しみ
- ・ トルコ帝国外伝ドラマ
- ・ 「相棒」が好きです
- ・ 沢口靖子さん内藤剛志さんが大好きで「科捜研の女」「捜査一課長」終着駅シリーズ
- ・ ミステリーシリーズ
- ・ 「パラサイト」を観て韓国に興味がわき冬のソナタ以来久しぶりに韓流ドラマを楽しんでいます

● 時代劇

- ・ 壬生義士伝
- ・ 韓映

- ・ 雲霧仁左衛門シリーズ
- ・ 阿部澄江(宮城県)
- ・ 剣客商売、鬼平犯科帳
- ・ 松前邦広(千葉県)
- ・ 時代劇なら何でも

● 囲碁・将棋

- ・ 囲碁トーナメント
- ・ 対局の機会が少ないのでテレビで見ながら勉強中

● 映画

- ・ 昔の映画の放送「寅さん」シリーズなど
- ・ NHKのBS3午後一時からの映画

● 健康番組

- ・ 健康に関する番組
- ・ たけしの家庭の医学

● 動物番組

- ・ ダーウィンが来た(NHK)
- ・ 岩合光昭の世界ネコ歩き



- ・ ワイルドライフ、ダーウィンが来た
- ・ 白戸麻奈(東京都)
- ・ 坂上どうぶつ王国、動物ピース、志村どうぶつ園
- ・ 橋本 絢(東京都)

- ・ 英雄たちの選択
- ・ 小澤円梨(静岡県)
- ・ 倉沢ひとみ(静岡県)ほか
- ・ 歴史秘話ヒストリア
- ・ 内藤紀子(埼玉県)
- ・ 吉里ひとみ(東京都)

● トーク番組

- ・ 徹子の部屋
- ・ フジ日曜ボクらの時代

- ・ 落語
- ・ 古典落語
- ・ 西條公雄(埼玉県)

● 俳句番組

- ・ NHK俳句
- ・ 山崎吉晴(群馬県)
- ・ 若井令子(兵庫県)
- ・ 平林義康(兵庫県)ほか
- ・ 歴史をひもとく番組が好きです
- ・ 中川義彦(新潟県)

- ・ 美術番組
- ・ NHKBS「美の壺」木村多江さんのナレーションの声音が不思議な世界へ誘う
- ・ 貝瀬光洋(神奈川県)
- ・ 日曜美術館
- ・ 溝畑万年青(埼玉県)
- ・ 料理番組
- ・ きょうの料理
- ・ 小林美智(新潟県)

つながるエール

古関マリ子様(山田富朗様からご紹介いただきました)



皆さまの人気を二分した感のある「プレバト」とNHK朝ドラ「エール」。その「エール」の主人公のモデルである古関裕而氏は、1909年福島市大町生まれ。1930年9月に日本コロムビア(株)に作曲家として入社し、以来「栄冠は君に輝く」「オリオンピック・マーチ」などのお馴染みの作品や、全国の校歌や社歌など生涯5,000曲余りを作曲しました。第一号名誉市民となった福島市には「古関裕而記念館」があり、楽譜やゆかりの品、ビデオコーナーなどで、氏の生い立ちや、作品等の紹介をすることができます。

ルーツはつながっているであろう古関マリ子様から記念館の前での写真をお借りしました。マリ子様は今も亡き旦那様はビジネスの世界で活躍されたそうですが、音楽が大好きで歌もお上手、本当は指揮者になりたかったとのこと。きっとDNAを受け継がれたのでしょね。

編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。



■ インスタ始めました



4月から、Instagram (写真共有ソーシャル・ネットワーキング・サービス) をスタートしました。SNSに不慣れな私たちで手探り状態ですが、おうち時間に少しでも彩りのある時間を…との思いで、毎週配信しております。Instagramをやっている方、ぜひ一度のぞいてみてくださいませ (喜怒哀楽書房で検索いただければと思います)。

■ Amazonで買えます

当社で出版くださった方の本が、Amazonで購入可能です。



- ①『句集 棉の実』日比野安平著 (本体1,100円) 一長年教員を務めたのちも、教育に携わりつづける著者による第四句集。
- ②『第三歌集 あかだいだいきいみどり』横山鈴子著 (本体1,760円) 一ひらがなで日々を詠んだ第三歌集。
- ③『句集 一對』小西瞬夏著 (弊誌vol.107にてご紹介) (本体2,200円)
- ④『句集 蹠』近澤有孝著 (本誌3頁にてご紹介) (本体880円)
- ⑤『石川雲蝶伝』こうじまちとら著 (本体1,760円)
- ⑥『詠み人のエッセイ TSUMUGU』 (本体1,980円) ー 2007~2011年の間リレー形式で弊誌に執筆いた

だいた俳人のエッセイ30篇が一冊に。(③~⑥は弊誌で紹介済)

実は… (小さい声で) これらの本は当社から発送も可能です。Amazonはちょっとなあ、という方はどうぞお気軽に当社までご連絡ください。お待ちしております。

■ 温かなカンパ、ありがとうございます！

前号にてカンパのことを掲載したところ、たくさんの方から温かいカンパを頂戴しました。本当に、ありがとうございます…！ 「いつも楽しみにしています」「コロナに負けないで、喜怒哀楽が続きますように」等々、胸が熱くなるメッセージも。

力強く応援くださる皆様を思い、これからもがんばります。そして、皆様のおかげで今号も発行できますこと、あらためてお礼申し上げます。



■ 初めてのテレワーク

わが社でも初のテレワークが実施されました。写真はSkype (スカイプ) というソフトを使って朝礼に参加している様子 (写真中央奥の方にパソコンがあります)。なんて便利なのでしょう。



■ マスク・コレクション

全スタッフマスク着用にて業務にあたっております。中には手づくり布マスクを着用しているスタッフも。その一部をご紹介します。いろいろな色、柄が楽しいですね。



■ 「hug」第1号完成

おかげさまをもちまして、お子様の絵を本にするサービス「hug」(ハグ) 第1号が完成しました。お客様からは“良い仕上がりでした。感謝申し上げます。今後時が過ぎ、「hug」を見たときにあらためてどんな思いになるのか…” とのお声をいただきました。ありがとうございました。



■ QRコードを使って、いつものアンケートを!?

スマホで送付書のQRコードを読み込むと、読者アンケートのページが開き、ここからご投稿が可能です。手書きのお手間と、ポストへ投函の御足労が不要となります。こちらを使ってご投稿いただいた方には、特典 (Myカレンダーという商品の半額クーポン) があります。いつもとちょっと違うことですが、ぜひ“読み込んで”ご体感ください！



▲佐渡諏訪神社に立つ荻原井泉水の句碑「佐渡はおけさで酔うて八日の月をおとした」

▶河東碧梧桐(岬とびかはず白い鳥の波間に消ゆる)山本家コレクション



佐渡を訪れた文化人2

河東碧梧桐・荻原井泉水

伊豆名 皓美

前号に引き続き、弊館企画展示「佐渡を訪れた文化人―山本家コレクションより」で紹介している文化人を取り上げます。今回は、河東碧梧桐と荻原井泉水の佐渡での足跡を紹介します。

愛媛県出身の俳人・河東碧梧桐が佐渡を訪れたのは明治四十(一九〇七)年十一月でした。この頃の碧梧桐は新傾向俳句運動を推し進めようと、明治三十九年から全国を広く遍歴していました。このときの紀行文を新聞に連載し、のちに『三千里』の題で出版しました。東京を出発して関東、東北、北海道を経て新潟県に入り、佐渡へ渡りました。碧梧桐を迎えて佐和田で句会が開かれた翌日、旧制佐渡中学校(現佐渡高校)を出たばかりの青野季吉(のちに文芸評論家、日本芸術院会員)らが案内にたち、秘境といわれた「海府めぐり」をしました。海府は集落ごと磯山が海に張り出していて、石ころ道で難渋する所が多くありました。このときに碧梧桐が詠んだ俳句が「岬とびかはず白い鳥の波間に消ゆる」でした。根本寺や真野御陵などを巡った後、鬼太鼓や春駒、能などを見て、小木から寺泊へ渡る、約二週間の旅でした。佐

渡の紀行文も『三千里』に収められています。碧梧桐の行くところでは、たいがい地元の俳人らによる歓迎会が催され、佐渡でも例外ではなかったようです。紀行文によると、佐和田のほか、相川、新穂、小木で催しが行われ、行く先々で熱烈な歓迎を受けました。佐渡での自然や史跡に惹かれ、句会で自由律俳句を広めたこともあって、碧梧桐は再び昭和二(一九二七)年九月に佐渡を訪れました。

碧梧桐に関しては独自の書風を確立した書家という見方もされ、度々展覧会が企画されるほどです。その書は洋画家・中村不折を通して触れた、中国六朝の素朴で雄渾な書の影響を受けています。中村不折とともに書団体「龍眠会」を立ち上げ、活動しました。

東京都生まれの俳人・荻原井泉水は、河東碧梧桐の新傾向俳句運動に参加し、明治四十四(一九二一)年に俳誌『層雲』を創刊しました。碧梧桐が二回佐渡を訪れて島内の俳人と交流を深めたこともあって、佐渡から『層雲』への投句者は数十人に及んだといえます。井泉水は、昭和七(一九三二)年八月に数人の俳句仲間と共に佐渡を訪れ、一週間ほどの滞在中に五十二句の俳句を作りました。佐渡での最後の夜には、加茂湖に船を浮かべて月を楽しみ、地元の人たちと酒を酌み交わして親睦を深めました。井泉水を敬慕する両津の俳人たちはこの時のことを忘れられず、昭和四十六(一九七二)年、佐渡諏訪神社に井泉水の「佐渡はおけさで酔うて八日の月をおとした」の句碑を建てました。加茂湖での夜を懐かしんでか、碑は加茂湖に向いています。

【展覧会情報】

企画展示「佐渡を訪れた文化人―山本家コレクションより」

会期：4月3日(金)から8月2日(日)(会期延長しました。)

休館日：月曜日

※6/4(木)に開催を予定していた講演会「文化人が見た佐渡―山本家と文化人たち」(講師：山本修巳氏)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止いたしました。

山形在住でありながら活動的に全国各地を巡り、俳句を通してイタリアのポローニャ市とも交流のある「銀化」同人武田菜美さん。俳句が磨かれる様をつぶさにご覧ください！

俳句添削講座 工房5・7・5 武田菜美

芭蕉の「謂いひおぼせて何か有ある。」(何もかも言い尽くした表現のあとには何かがあるというのか)は、言外にある余情こそが大切だと教えています。読み手がこの余情を汲んで想像を働かせることで、世にも短い詩の世界が何十倍にも広がります。それだけに読み手が想像するための余白が残っているかどうか、推敲のポイントとなります。述べ過ぎにはくれぐれもご注意下さい。「言葉八分に添削いらす」です。

つつましく母の遠忌や風花す

「つつましく」をそのままにすれば

つつましく母の遠忌を風花す

ではないでしょうか。

「母の遠忌や」を生かそうとすれば

つつましく母の遠忌や風花す

となり、句の意味が全く違ってきます。

つつましく法要を執り行ったのか、つつましく生きたお母様の忌日を迎えたのか。たった一字によって変わってしまいます。ここが短詩型文学の恐いところです。

ひとり酌む形見の盃や樽明り

読み手の心の真ん真ん中を狙った手練の句ではありますが、まだ推敲の余地があります。酌むも盃も酒を連想させる言葉です。酌むは省いてみましょう。次に囲炉裏の火を見詰めて形見の盃でと言っただけで、独り

の説明も不要かと思われれます。ひとり酌んでいる背中と言外の余情として読み手に感じてもらいましょう。形見の盃かみづきでは字余りに。しかし形見の盃はいやでは響きがいまひとつです。この三点に注意して再度組立ててみましょう。

樽を継ぎ形見の猪口を傾ける

コンドルの翼にのつてくる初春

季語の「初春」は早春の傍題で、立春後、二月いっぱいくらいを言います。約二五日間ですので句が冗漫になります。俳句は時間を追うよりは一瞬を切り取って詠む方がおとくです。立春の傍題に「春來たる」があります。待ちに待った春がやってきた嬉しさを詠んでみませんか。

コンドルの翼に乗つて春來たる

木枯しに終着駅のなかりけり

江戸時代の俳人池西言水は「凧の果はありけり海の音」の一句で後世「木枯の言水」と呼ばれるようになりました。この句を踏まえたのでしょうか、山口誓子は「海に出て木枯帰るところなし」と詠みました。木枯の字面からして、山に生まれて海に果てる事がその宿命のように感じられます。ついては、原句のエンドレスで吹き続ける木枯にも、誓子の句の切なさかほしいものです。

木枯しに出ては戻れぬ山河かな

未来より今が大事と老いの春

学生の頃は未来に向かって直向きに走っていませんでしたか。「未来より今が大事」の措辞だけで、すでに老境に差し掛かっていることが伝わります。老いは生病死と共に四苦に数えられるように、暗く淋しいイメージがつきまといまいます。その老いに寒く厳しい冬を取り合わせてしまつては、暗さの二乗、三乗となります。同じく老いを詠んだ

生くことやうやく楽し老の春 風生

は老いにまつわるイメージを見事に裏切っています。せつかく積み上げた齢ですので、老いの特権を行使してみたいかがですか。

未来より今を大事に日向ぼこ

雪吊りの張りに矜持のあるごとし

「あるごとし」には九分九厘あるように見えるが…の弱さがあります。「ある」と断定することをすすめます。次にこの矜持は庭師さんのプライドでしょうか。それとも松のそれでしょうか。雪吊の縄は張り過ぎても弛んでも、雪の重さで枝が折れるそうです。職人さんは縄のわずかな遊びにプライドを懸けて仕事をしています。また雪吊を施されることは大切な松の証であり、松のプライドとも言つてできます。

雪吊にお手植の威の高まりぬ

雪吊の張りに庭師の矜持かな

野菜のポストカード 縦書き横書きあります



ご好評いただいている季節の野菜が12枚入った野菜のポストカード(送料込み1000円)。ほんの一言でも、心のこもったお便りはうれしいもの。ご自身のお便りに、プレゼントにご活用ください。今回は「トマト」を同封しました。ご注文は同封の振込用紙をご利用のうえ、縦書き、横書きのご希望も併せてご記入ください。

写真自分史のチラシ同封しました!!

この度、喜怒哀楽に同封した写真自分史のチラシ。本誌4ページでも制作過程の一端を紹介しましたが、既に作られた方からは「次は二人の子どもの成長過程をまとめたい」等好評をいただいています。また「このアルバムを作成する中で、自分の人生で触れ合った人々から助けてもらったり、お世話になったりしたことを改めて思い出し、感謝の気持ちでいっぱいになった」というお声も頂戴しました。断捨離だけではない、副産物のあるこの「写真自分史」、ご自身の節目や記念にぜひお考えください。写真が選びきれない、アルバムから剥がれない…等といったご相談など、お気軽にお問い合わせください。皆さんの唯一無二の人生を形にします。



第29回 井月俳句大会 締切を1ヵ月延長

漂泊の俳人・井上井月をしのぶ第29回信州伊那井月俳句大会の投句募集締切が、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1ヵ月延長されました。

締切／令和2年7月8日(水曜日) 必着

応募方法／俳句3句1組(テーマは自由。何組でも応募可、未発表の自作作品に限る。できるだけ1句は井月を偲ぶ句を入れる)。所定の応募用紙に楷書で記入し、投句料を添えて事務局へ郵送

投句料／一般：3句1組1,000円(句集代込・郵送の場合は定額小為替か現金書留)

振込先：八十二銀行伊那市役所出張所(普通) 38411信州伊那井月俳句大会実行委員会

高校生：無料、高校生のみファックスでも応募可能

選者／伊藤伊那男、倉科繁登、佐藤文子、城取新平、中澤康人、降旗牛朗、古田紀一、堀川草芳、宮坂静生、山口斗人(敬称略・五十音順)

賞／第29回信州伊那井月俳句大賞、伊那市長賞、高校生俳句大賞ほか9賞

※令和2年9月13日(日) 予定の俳句大会はすべて中止、入賞者へは後日賞状を送付

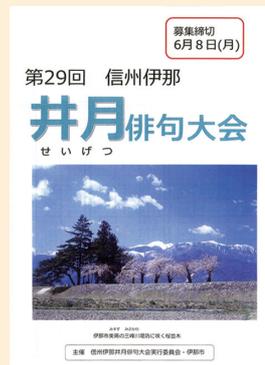
応募・問い合わせ先

〒396-8617 長野県伊那市下新田3050番地

文化スポーツ部文化交流課内「信州伊那井月俳句大会」担当

電話：0265-78-4111(内線2742) FAX：0265-72-4142

メール：bkr@inacity.jp



スタッフの一言 Q.好きなテレビ番組は何ですか ※時節柄みんなマスク着用です!!



木戸 敦子
今のお楽しみは夕飯時ビールを飲みながら旦那と並行で(コロナの前からこう)見る録画の「エール」。お互い去来するのは「こんなパートナーだったらよかったのに…」なのかもね。



古川 久美子
パピペボディとピタゴラスイッチ。どうしても、昔からの癖で休みの日にはEテレ(昔は教育テレビ)を付けてしまう……。



菅 真理子
「365日の献立日記」。沢村貞子が26年半毎日書き続けた献立日記をもとに、フードスタイリストさんが季節の料理をつくっていく。手際よく、とにかく美味しそうなのです。



松野 沙依
「ザ少年倶楽部」。某男性アイドル事務所の若い子たちが歌ったり踊ったりする番組。フレッシュで美しいアイドルの卵たちが輝いている姿を見ると、翌日肌ツヤがよくなります。



山田 民子
「孤独のグルメ」一癖ある店主が作る料理はまさに飯テロで、井之頭五郎がその料理と店に敬意を払いながら食べる様子が好きです。輸入雑貨商という洒落た職業もまた良いです。



木伏 美恵
朝ドラ。朝の忙しい時間帯だから毎回見るのをやめようと思うのに見続けて何年経つか。息子が2歳のとき保育園のお昼寝で寝ぼけながら朝ドラ主題歌を歌っていたとか。



上村 眞智子
「志村けんのたいじょうぶだあ」3月頃に放送があったと思うのですが、2月に母を亡くしたばかりの私は悲しみの中、とても慰めてもらいました。それなのにもう再放送でしか見られないなんて涙がです。



石山 由希子
昭和のテレビで育ったテレビっ子なので、用もないのになんとなくつけてしまう。家事をしながらの「ながらテレビ」がほとんどです。バラエティが多いかも。



吉田 瞳
ラジオ派なので観るとしたら、渡辺篤史の建もの探訪をTVerで観る。オンタイムでは満点☆青空レストランを観ながら乾杯～!の時間が至福の時かも。



佐々木 祥子
自分一人の時、基本テレビは観ないです。家族が時代劇、ボツンと一軒家、プレバト、鶴瓶の家族に乾杯などを観ているので流れと一緒に観るくらい。

肩

黒岩徳将

身体の一部を織り込んだ俳句についての試論3回目
目は「肩」。「肩を落とす」「肩を叩く」等、「肩」に
あまり前向きな慣用語はないような気がする。次回
は頭、首、肩ときてどの部位か。順当か、はたまた
た肩透かしを食うかもしれない。

肩といえば「肩の力を抜いて」というアドバイスと思う。

緊張感・ストレスが視覚的に現れやすいのは肩である。肩が凝っている場合に肩をマッサージすれば必ずしも凝りが解消されるわけではなく、胸や脇、首などに根本の原因がある場合もある。しかし、「凝り」という言葉に最も親しいのは「肩」である。先人の句を探してみたところ、身体性よりはヒューマニズムを詩情の起点として書かれた句が多いことに気づいた。

肩に来て人懐かしや赤蜻蛉

漱石

赤とんぼが肩のあたりまできて、漂っている。中七の詠嘆の「や」がノスタルジーを誘う。本当に懐かしさを感じているのは、とんぼではなく実は人間の方かもしれない。対象物と自己との親しい距離感を表すのに、肩という位置が適していると言えそうだ。

人の手がしづかに肩へ秋日和

鷺谷七菜子

寡かな句である。「人の手」というのはゆつたりとした述べ方で、強すぎることもない秋の日射しとともに肩が手に包みこまれる。部分を描くことで、二者の関係をいくらでも想像できるところが魅力であり、人生の普遍的な美しさが描かれている。肩揉みだろうか、励まされようか（驚かさうとしている、という読みは季語「秋日和」で除外できるのではないかと思う）。

偶然だが「人」の句が続いた。「肩」と「人」というキーワードから、もう一つ想起しやすい語は「肩車」である。

子にみやげなき秋の夜の肩ぐるま

能村登四郎

忘るるなこの五月この肩車

高柳克弘

登四郎句はせつなさとおおらかさが同居する。「なき」という表現から、本当は買ってきてやりたかったという悔いがあるのだろうが、それを気にしているのは親の方であり、子どもはシンプルに肩車で喜んでいるのかもしれない（せめて肩車ぐらいしてくれとねだられたのかもしれない）。澄んでいる夜である。登四郎句と比べて、克弘句は構造が複雑であり、一句のどこを見ても切実さを感じられる。重要な点は、まず上五が命令形という珍しい形であること、「この」を繰り返して畳み掛けていること、そして「忘るるな」は誰に向けて呼びかけているのかということ。筆者には、第一義は子に忘れてほしくないという願いかもしれないが、自分に「忘るるな」と言い聞かせているようにも思えた。生命溢れる季節の中で思い出を自分の中に焼き付けなくてはならないという使命感だろうか。昭和と平成（・令和）という時代は違っても、親から子へのまなざしというものは、子の立場からは計り知れないのかもしれない。二句が親の立場を考えさせられるのは、「肩車」という重力を感じさせる行為を基底としているからである。読んでいてつい肩に力が入ってしまった。ついでにもう少し、自分の肩を眺めていようと思う。

五月雨や肩組みし友みなはるか

徳将

編集後記

歌は時代を映す鏡、と言われるが詩歌も同様。今号の作品はコロナ禍が多く詠まれている。オイルショックでトイレトペーパーの買占めが起きたことは覚えているが、物の溢れる時代にあって今回のマスク、消毒液不足はあれ以来か。時代を映すという意味で、今回のスタッフ写真日常のままマスク姿で失礼させていただいた。以前は机をつけて口の字型で喋りながらとっていたランチも、今は一人一机での孤食状態。今後に不安はあれど、8月号では笑顔でお会いできることを願っています!! (木戸敦子)

●プロフィール

1990年神戸市生まれ。東京都在住。
「いつき組」所属、「街」同人。現代俳句協会青年部副部長。